

令和6年度第2回学校運営協議会報告

- 1 日 時：令和7年2月21日（金）15：30～17：25
- 2 場 所：本校会議室
- 3 出席者：学校運営協議会委員7名
本校職員7名（校長、副校長、事務長、各課主任、総務課員）
計14名

- 4 次 第：1 開 会
2 学校長挨拶
3 協 議
(1) 令和6年度学校経営計画達成状況について
(2) 大野高校への支援事業の実施状況について
(3) 入学者確保に向けた取組について
(4) その他
4 その他
5 閉 会

5 内 容：

2 学校長挨拶

日頃から本校の様々な教育活動にご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。学校では、今年度最後の考査も終わり、1・2年生は皆様のご協力をいただきながら来年度を見据えて動き始め、3年生は全員無事卒業式を迎えるばかりとなった。今年度の志願者数は13名となり、存続が一層厳しくなっている。今後、洋野町とも連携し、県教委との協議を進めていく。来年度一人でも多くの中学生に志望してもらえよう、本日は忌憚のないご意見を賜りたい。

3 協議【質疑・意見交換】

(1) 令和6年度学校経営計画達成状況について

G 氏：3ページ。学校評価アンケートに関して。

1「本校の学校経営計画についてわかっている」の生徒の%が低い要因は？

副校長：年度始めに策定している学校経営計画の内容について、生徒に十分に浸透していないことだと考える。次年度は、生徒が理解できる具体的な方策を考えたい。

D 氏：学校評価アンケートの選択肢は、A・B・C・Dの4つの選択肢か？

副校長：4つとなっている。Cは、「どちらかといえば、そうでない」Dは、「そうでない」の選択肢である。

D 氏：全体満足との比較をしやすいするためにも、選択肢に重み付けをしてはどうか。

D 氏：アンケートでの保護者と生徒の%を比較すると、保護者の%が総じて若干低い数字が出ているが、経年同様の傾向か、今年度の特徴的なものなのか。

副校長：アンケートの母数が低いため、一人の持つ%が高くなっている。そのため集計担当としては、10%以上の差については注視している。

D 氏：今後、分析を精緻化させていく際には、質問項目を具体的なものにした方がよい。また、学校満足度に加えて、この学校に対する他者への「推奨度」の項目を入れることによって、学校満足度との因果関係を計ることができる。

C 氏：1 ページ。重点目標 1 の内容について。「授業に関するアンケート調査」における生徒の満足度を表す項目 15 項目の具体的な内容は？

教務主任：大きく分けると 3 つ。①教員が生徒に対して分かりやすい授業を行っているか。②生徒が授業の中で主体的・対話的活動があるかどうか。③生徒がその教科の課題を行っているか、役立つと感じているか。で構成している。

C 氏：アンケート項目の内容を具体的に示すなど客観的資料があれば、評価の根拠として理解することができるのではないかと。生徒が授業に満足することと主体性を持って人々と協働して学ぶ力が身につくことは、必ずしもイコールとはならないものであり、また達成指標は、必ず 100% でなければならないということではなく、70%・80% であっても十分な評価と言えるものもあるのではないかと。

異議なし、承認

(2) 大野高校への支援事業の実施状況について

F 氏：高校魅力化（探究共創事業）の今年度の担当者は？

副校長：授業「総合的な探究の時間」の計画や運営は、各学年（担任または担当）と探究コーディネーターとが連携して進めている。

F 氏：今年度は、どのようなテーマ設定で進めたのか？できれば、1・2 年生で連動した学習内容が望ましいと考えるが・・・

副校長：先週の最後の授業は、まとめの授業であった。その中で 1 年生は、洋野についての学習を踏まえ、地域を盛り上げるためのアイディアの発表を行った。2 年生は、自分のことを知る目的で、「自分が大事にしているもの」などの思いを書き出す・話すことで、今後の自分の進路に活かせる方法を学ぶ授業であった。3 年生は、完全に進路実現に向けた時間としているので、全体的には進路実現を意識した流れとなっている。

D 氏：総合探究の授業は、学年毎で連続性のある内容とするべきである。

学校戦略（魅力化）を進めるうえで、総合探究の授業は重要である。

コーディネーター任せでなく、学校も関わりながら進めていくことで、連続性や魅力化に繋がり、入学者確保にも繋がるのではないかと。

成果発表は、町内・学校内ではなく、対外的に広くアピールする意味でも全県的な発表会などで発表することを意識して、コーディネーターさんとともに計画・取組みを進めていただきたい。

C 氏：D 氏のとおり、探究活動の取組みを魅力化事業に取り入れるべきである。

これまで2回のワークショップに携わり、大野高校の魅力化について生徒の取組みの様子を見ていたが、2回で終わらせることが惜しいくらいの内容で、今後も同じテーマで取り組んでいいのではと思った。

高校生の取組み（発表）を中学生に見せることで、大野高校生ってすごいなという思い、大野高校に進学したい気持ちにもなるのではないかな。

異議なし、承認

（3）入学者確保に向けた取組について

A 氏：久慈平荘との合同避難訓練については、非常に良い取組みだと思う。施設周辺で救助等できる人が少なく、高校生が関わってくれば施設にとっても助かるのではないかなと思う。合わせて、生徒への防災意識も高まり、そのことで防災士の資格取得にも繋がっていくことも期待している。

E 氏：大野中学校との部活動連携は、非常に良いことだと思う。中学生が進学する高校を選ぶ際に大きなポイントとなっている部活動がどのような状況にあるのかについて参考としている生徒が多いようである。そのため、生徒が取り組みたい部活動が必要と考えるが、部活動について今後の方策等はあるのか？

校 長：部活動については現在、任意加入が前提となっているので、部活動に組みたい生徒が何らかの形で取り組むことができる方法を考えたいと考えているが、要望に沿って部活動を増やしても、顧問を配置するための教員の数や負担などの課題がある。地域との活動とも連携しながら、できることをしていきたいと考えるが、具体的な方策については、出てきていない状況である。

C 氏：部活動の地域移行が中学校では年々進んでいるところであるが、高校での部活動の地域移行は、どのような状況にあるのか？

校 長：高校では、そのような流れは現時点ではない。国の方針においても小・中学校についてのみに示されているが、高校では方針は出ていない状況である。

異議なし、承認

（4）その他

コース名の変更について

D 氏：学校側から説明のあった、「普通コース」を「進学コース」、「ビジネスコース」は、そのままの名称でとのことであったが、普通コースを変更するのであれば、ビジネスコースという名称も変更し、時代に合ったトレンドとして生徒アンケートの回答結果にもあるように「地域ビジネスコース」としてどうかと考える。配布した資料にあるとおり、私の考える地域ビジネスとは、地域の教育力を活かし（地学）、地域に就職する（地就）という「地学地就」の考え方である。

これを基に、大野高校では地域の教育力を取り入れ、将来的に地域で活躍する人材を輩出することで、地域ビジネスという設定にしてはどうかということである。

コース名の変更は、高校の魅力化にも繋がる1つと考えるので、次年度の早い時期にコース名を決定していただき、令和8年度に高校入学を控える中学生に周知できる体制をとっていただきたい。

C 氏：地域に関わりたいという中学生が多い地域でもあるので、地域ビジネスコースというのは、インパクトがあると思う。「ビジネス」といえば、商業系のイメージにもなりやすい。地方や地域ということが今トレンドとなっていることから「地域ビジネス」とした方がよいと思う。

F 氏：説明では、カリキュラムの内容に変わりはない、とのことだったが、民間の立場として、内容に変わりがなくとも名称を変えるくらいなら、すぐに変えてもよいのではと思う。時代の変化に合わせて変わっていくことも大事ではないのか。地域で学校が変わったことを知ることで、入学者が増えるとなれば、それでよいのではないかと考える。変わることが大切であると思う。

校長：様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。

コース名の変更は、「中学生でもわかりやすい表現に」という趣旨で検討・協議を始めたところであった。地域のことについて学ぶ機会や行事への参加などは、ビジネスコースの生徒のみに限らず生徒全員が取り組んでいるものであり、ビジネスコースのみに地域とするのはどうかという意見であった。また、コース制は、進学を希望する生徒、就職を希望する生徒に合わせたカリキュラムを編成し、それぞれにおいて学習している。その中で地域に育てていただいているという気持ちではあるが、学校としては、生徒が希望する進路を実現できるよう地元に残る生徒、地元を離れる生徒関係なく育てていかなければならないと考えている。そういったことからビジネスコースに地域と付けることはどうかという結論となった。

皆様からのご意見を伺い、この件については、時間をかけて議論することと理解したので、来年度からの変更は見送り、生徒・職員と協議しながら令和8年度からの名称変更について来年度検討していきたい。

H 氏：生徒へのアンケートを実施する際は、先程 D 氏から説明のあった「地学地就」の意味を生徒に説明したうえで実施していただきたい。

A 氏：生徒たちは、「地域」ということをあまり限定的に捉えないような感じもするが。

C 氏：私の考える地域の認識は、すべてが地域であるということ。仙台であっても東京であっても地域であり、大野や洋野だけが地域と限定的には捉えていない。

校長：考え方としては様々であり、そのとおりのことと思うが、中学生にコース名について説明する際に地域とした意味について二重に説明を要することになる。進学・就職を希望するそれぞれの生徒が学ぶ方向（コース）としてシンプルにわかりやすくした方がよいと思う。

B 氏：国や県などの手続き的なものは、どのようなになるのか。

校 長：国への申請などは不要。来年度に名称変更する場合、今月末に県へ提出することとなっているが、それを過ぎた場合は、令和8年度に変更することで、来年度中に提出することとなる。

運営協議会意見

普通コースを進学コースとすることに異議はないが、ビジネスコースを地域ビジネスコースに変更することを意見とする。

4 その他

<学校より>

今年度の学校運営協議会は、本日をもって終了とさせていただく。また、皆様の委員としての任期は、1年となっていることから、委員としての任期も本日をもって終了となるが、各委員の皆様には、これまでも含め、今後も本校と関わりをもっていただきたい方々であり、来年度も引き続き委員をお願いしたいと考えている。その際は、お引き受けいただきたいが。もし、お引き受けられないという方がおりましたら、お知らせいただきたい。

5 閉 会